

第3回市民ワークショップ<つるおか未来カフェ> グループワークまとめ  
これからの10年で鶴岡市のまちづくりに重視したい着眼点から考える施策の方向性

**①挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備**

- ①体験型のイベントを増やし鶴岡の魅力を知る機会を増やす。
- ②地元の人も、他地域から訪れた人も気軽に宿泊できる施設を増やす。
- ③多くの人に興味を持つ投資先・仕事づくりにつながる環境をつくる。
- ④SNSや情報誌だけではなく、補助金等を活用し、観光情報や挑戦・投資している人の声を発信する。
- ⑤安全で通学しやすく、同世代での友達づくりができ、学生生活を思い切り楽しめる鶴岡にする。
- ⑥週7日オープン化市役所カフェで制度の紹介や申請手続きが出来るようにする。
- ⑦技術を学べる学校をつくり、中小企業との連携で活性化する。

**②人づくりによる人材の確保**

- ①視野を広げ、価値観の共有をするため、多世代間の交流の機会を増やすゾ！
- ②つるおかLOVE♥を増やすため、地域の歴史・文化・産業を知る機会を増やすゾ！
- ③“自分”のまちをつくるため、自分事としてとらえられる人を増やしていくゾ♪
- ④地域の人材を上手く活用するための情報発信をしていくゾ！
- ⑤新しい企業をどんどん増やしていくゾ♪
- ⑥ ①～⑤の結果として、鶴岡LOVEが増え、よりよいまちになるゾ。

**③交流人口を増やす施策の実施**

- ①高齢になっても、身体が悪くなっても、助け合って過ごせるとともに、各地域をつなぐコーディネーターになり、楽しみと達成感を得られるまちをつくる。
- ②若い世代が意欲を持ち、発想を大切にし主体性を持ってイベント、店、企画を創出し実行する。
- ③鶴岡らしい人のつながり、温かさと思いやりを持って、Uターン、Iターン、Jターン等の移住者のための交流の場を増やす。
- ④みんなが宣伝大使という意識を持ち、「鶴岡」というブランドを発信し、新しいモデルコース(アウトドア向け、歴女向け、パワースポット)をつくる。
- ⑤車以外の交通網を整備して日本中の都市と行き来しやすくする。

**④若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築**

- ①若者が楽しめる、学業や仕事のおわりにくつろげる居場所づくりをする。空き家を活用したカフェ。ゲストハウスなど。
- ②さまざまな人が気軽に集まれる食堂をつくる。高齢者、子ども、IJU者など。
- ③若い人たちの声を行政に届けるためにWSをこれからも開催していく。

- ④バス、タクシー、JRなど公共交通手段を充実させて子どもや高齢者、障害者がまちに出やすくする。
- ⑤スポーツ施設や公園を増やすことによって住民の健康を促進する。
- ⑥介護もして仕事も続けられる社会にする。
- ⑦学生のうちから、鶴岡の魅力について学ぶ、知る教育システムをつくる。
- ⑧住み慣れた家を、地域の力でよりよい環境に変えられるよう、助成事業の継続、強化を目指す。
- ⑨障害者スポーツ大会、ミュージックフェスティバルを開いて町を賑やかにする。
- ⑩いつ、どんな時も突発的なニーズに応じてくれる子どもも一時預かりの充実。
- ⑪福祉、介護の体制を充実させるために情報発信を行い、気軽に相談できる体制をつくる。
- ⑫危険のない安心できる暮らしにしていこう。
- ⑬地方の中小企業の活性化を図って賃金を上げていく。
- ⑭健康に暮らしていくための予防対策イベントをする。

## ⑤内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承

- ①自然と歴史と文化の良さに気付き、伝承していくために体験できる場を増やす。
- ②イベントを通じ鶴岡の良さを知ってもらうため、各世代ごと受け取りやすい手段で情報を発信し、参加を促す。

## ⑥「循環」をキーワードとして重視

- ①資源 『リユース・リサイクル意識の向上と市民への還元』
- ②地産地消 『学校給食を起点とした地産地消の推進』
- ③教育 『地域の良さをすることで若者が帰ってくる仕組みづくり』
- ④商業 『高度教育機関との連携』
- ⑤仕事 『循環による職場づくり』
- ⑥ハード 『つるおか未来カフェをつくり、循環を生み出す』

## ⑦対応から本格的国際都市へのシフト

- ①在住外国人の普段の生活のガイドブックをつくる。
- ②外国人のニーズによって対応できるように、英語表記の日常化。
- ③外国からの観光客が来やすいように交通アクセスを増やす。
- ④お互いの理解のために、コミュニケーションのチャンスを起こす。
- ⑤最新技術を活用して鶴岡を世界に発信する。
- ⑥外国からの観光客が購買を促進する。

## ⑧コンパクト＋ネットワークによる自立分散型社会の実現

①鶴岡の個性(例えば城下町、古いもの、食文化、クラゲ…)を上手に表現(例えば商店街のシャッターペイント、お店の人の話し方(たそがれ清兵衛語とか)や武家衣装)して、地元の人にも観光客にもPRやアピールをしていく。

②鶴岡のそれぞれの課題に誰がホントに困っているのか現状を知る機会として「ミーティング」「研修」「子ワーキングスペース」等を増やしていく。

③空き家、空き店舗の利用拡大のために活用しやすい仕組みづくり。

④技術の進歩をまちづくりに取り入れ、鶴岡の強み(広域、山、里、川、街、海)を有効活用する。例えば電動自動車シェアリングを推進することで距離のハンデを克服する。

## ⑨オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

①市民がオンリーワンを見つける参加型のワークショップをする。

②未来志向のコーディネーターを育成する。

③「不便さこそ宝」を前面に押し出す。

④サイエンスシティを目指す。

⑤自然との共存からオンリーワンを見つける。

⑥市民一人一人が鶴岡ブランドを発信する。